

復員廳第二復員局公報

第一〇九號

昭和二十二年五月五日(月)

第二復員局文書課

○令 達

復二第三一八號

復員廳分課規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

復員廳總裁

別紙第二ノ第二十八條表中佐世保地方復員局ノ項上陸地連絡所ノ欄「博多」ヲ削ル。

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第三一九號

復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

復員廳總裁

佐世保地方復員局ノ部中博多上陸地連絡所ノ項ヲ削リ合計ノ項中「六八五」ヲ「六七五」ニ、「一五七六」ヲ「一五六二」ニ、「四八一三」ヲ「四八〇一」ニ改メル。

(參照 二月八日第二復員局公報)

○通 牒

二復第一五三號

昭和二十二年五月二日

復員廳第二復員局總務部長

各廳長殿

元特別輸送艦海第十四號乗員ニタイスル謝辭ノ件通知

首題ノ件ニ關シ船船運營會神戸支部船員部長ヨリ左ノヨウナ謝辭ガアツタ。

神船海發第一〇〇號

昭和二十二年四月六日

船船運營會神戸支部船員部長 濱 慶房

第二復員局總務部長殿

第二次「アンラ」船團護衛艦海第十四號艦長  
以下乗組員ニタイスル感謝ノ件

首題ノ件ニ關シマシテ第二次「アンラ」船團(VANRA)ハ昭和二十一年十二月二十一日神戸ヲ出港シテ翌年二月二十六日上海到着ニ至ルマデ冬季ノモンスーン時季最モ至難ニシテ危険多キ海上ヲ無事東支那海橫斷ニ成功シマシタコトハ定ニ慶賀ノ至リデアリマス。

復員廳第二復員局公報 第一〇九號 昭和二十二年五月五日

一〇五

0944

是レ偏ニ此ノ種小型船ノ護衛指揮ニ特別ノ考慮ト理解ヲ持ツテ  
回航ノ任ニ當ラレタル海第十四號艦長以下乗組諸子ノ異常ナル  
御努力ト優秀ナル技能ニ俟ツ處多大ニシテ私達ノ齊シク敬意ト  
感謝ノ意ヲ表スル次第デ御座イマス。  
尙上海ヨリノ歸途回航員一同本艦ニ便乗中モ多大ノ便宜ヲ與ヘ  
ラレ和氣霽々裡ニ神戸ニ歸着スルコトガ出来マシテ當會回航員  
代表ヨリ絶大ナル讃詞ヲ以テ感謝ノ意ヲ表シテ參リ當方トシテ  
モ感謝ニ堪エヌ次第ニテ貴職ニ於テ同艦々長以下乗組員一同ニ  
御傳達下サルヨウ御依頼申上ゲマス。

○ 雜 款

○郵便物發送先  
特別保管艦 樺 東舞鶴郵便局氣付

0944-2

復員廳第二復員局公報

第二一〇號

昭和二十二年五月九日(金)  
第二復員局文書課

○通牒

二復經主第七號ノ一九  
昭和二十二年四月十八日

關係各廳長殿  
第二復員局經理部長

所得稅ノ取扱ニ關スル件通牒

今般法律第二十七號ヲ以ツテ所得稅法改正サレ本月一日ヨリ施行サルコトトナツタガ第二復員部内ニ勤務スル者ニツイテハ左記了承ノ上處理サレタイ。

記

一 納稅義務者

内地ニアル第二復員部内各廳ニ勤務スル者(外地又ハ外國ニ派遣サレタ特別輸送艦乗員ヲ含ム)

(註) 所得稅法(以下法ト謂フ)第一條、法附則第二條參照

外地又ハ外國ニアル者ハ除外サレル。

所得稅法改正法律第二十七號ハ昭和二十二年三月三十

一日附官報號外(二)參照

二 課稅所得

(イ) 給與所得

俸給、給料(報酬ヲ含ム以下同ジ)、暫定加給、勞務手當、掃海手當、臨時家族手當及ビ臨時勤務地手當

(ロ) 退職所得  
退職手當及ビ掃海慰勞金

(註) 法第九條參照

三 控除

(イ) 給與所得控除

給與所得ハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ二ニ相當スル金額(ソノ金額ガ六千圓ヲ超エルトキハ六千圓)及ビ四千八百圓ヲ控除スル。

(ロ) 退職所得控除

退職所得ハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除スル。

ソノ年中ノ給與所得カラ(イ)ノ四千八百圓ヲ控除シテ不足額ガアルトキハ退職所得(十分ノ五ヲ控除シタ金額)カラソノ不足額ヲ控除スル。

(註) 法第九條、第十二條參照

(ハ) 扶養親族控除

第一號ニ該當スル者ト生計ヲ一ニスル配偶者及ビ三親等内ノ親族ヲ年令滿十九歲未滿若シテ六年令六十一歲以上又ハ

復員廳第二復員局公報 第二一〇號 昭和二十二年五月九日

一〇七

0945

不具廢疾ノ者ハ一人ニツイテ年額二百四十圓ヲ所得稅額カラ控除スル。

同居親族デアル配偶者ノ双方ガ納稅義務者デアル場合ハ所得金額ノ多額デアル一方ハ扶養親族カラコレヲ除クモノトスル。

配偶者及ビ三親等ノ親族デ同居親族トシテ生計ヲ一ニスルモノノ範圍ハ廳長必要ニ應ジ本人ヨリ米穀通帳又ハ金融手帳等ヲ提示セシメテコレヲ認定スルモノトスル。

(註) 法第八條、第十四條、所得稅法施行規則(以下規則ト謂フ)第五條、第六條參照

四 申告

(イ) 確定申告

ソノ年中ニオケル給與所得及ビ退職所得ノ收入金額(退職所得ニツイテハ收入金額ノ十分ノ五ニ相當スル金額)ノ合計金額ガ三萬圓ヲ超エ又ハ他ノ所得ノ金額ガ五百圓以上ノ場合ハ翌年一月三十一日迄ニ確定申告書ヲ納稅地ノ所轄稅務署長ニ提出スルモノトスル。

(註) 法第二十六條、規則第二十三條參照

ソノ年中ノ給與所得及ビ退職所得ノ收入金額(退職所得ニツイテハ收入金額ノ十分ノ五)ノ合計額ガ六萬圓以下デ且ツソノ他ノ所得ノ金額ガ千圓ニ滿タナイトキハ豫定申告書ハ提出ヲ要シナイカラ本通牒ニハ豫定申告ヲ省略スル(法第二十一條乃至第二十三

條參照)

(ロ) 扶養親族ノ申告

前號(ハ)ノ扶養親族ヲ有スル者ハ申告義務者ノ氏名、住(居)所、給與支拂者ノ氏名、住所、扶養親族ノ氏名、生年月日、申告者トノ續柄、不具廢疾ノ事由及ビソノ他參考トナルベキ事項ヲ記載シタ申告書ヲ毎年最初ニ給與ノ支拂ヲ受ケル日(年ノ中途ニテ新ニ給與所得ヲ有スルニ至ツタモノハソノ最初ニ給與ノ支拂ヲ受ケル日)ノ前日迄ニ給與ノ支拂者ヲ經由シテ納稅地ノ稅務署長ニ提出スルモノトスル。

前項ノ申告書ヲ提出シタ者給與支拂者又ハ扶養親族ノ異動ガアルトキハ異動ガアツタ事項ソノ他必要ノ事項ヲ記載シタ申告書ヲ前項ニ準ジ提出スルモノトスル。

(註) 法第三十九條、規則第四十五條參照

五 税金ノ納付(源泉徴收)

給與所得又ハ退職所得ハソノ給與ノ支拂ヲナス際左ニヨリ稅額ヲ徴收シ納付書及ビ計算書ヲ添エ翌月ノ十日迄ニ國庫ニ納付スルモノトスル。

(イ) 給與所得

給與所得ハソノ給與金額並ビニ申告サレタ扶養親族ノ有無及ビソノ員數ニ應ジ第一表ニ掲ゲル稅額

(ロ) 退職所得ニツイテハソノ十分ノ一(但シ退職所得ノ金額二萬圓未滿ノ場合ニ限ル)ニ相當スル金額

新ニ採用又ハ退職等ノ爲給與ノ日割計算ヲ爲ス場合ニオイテ

0946

ハソノ給與ノ支拂ヲ爲ス際ノ日額ノ給與金額ニ應ジテ第二表ノソノ日ノ給與ノ金額ノ欄ニ該當スル行ヲ求メ、ソノ行ト扶養親族ノ數ニ應ジテ求メタ當該欄トノ交ルトコロニ記載シアル稅額ニ相當スル額ニソノ月支給スベキ俸給又ハ給料ノ日數ヲ乘ジテ得ク金額ニ相當スル金額ヲ稅額トシテ控除スル。轉勤又ハ轉官ノ場合ハソノ際支給スル給與ニツイテ前項ニ準ジ稅額ヲ徵收シ又ハ稅額ヲ未控除（退職所得ヲ除ク）ノヤマ新勤務廳ニ通牒シテ控除ヲ依託スルコトガデキル。前項ノ通牒ニハ未控除ノ給與種別、給與期間ソノ金額ヲ記載スルモノトスル。

同一月ニ二回以上ノ給與ノ支拂ヲ爲ス場合ノ第二回以後控除スベキ稅額ハ最初ノ給與金額ニ課スベキ稅額ト最初ノ給與金額ニ第二回以後給與スル給與金額ヲ加エテ合計金額ニ課スル稅額トノ差ニ相當スル金額（即チソノ月ノ給與ニ對シ既ニ納付シタ稅額ヲ控除シタ金額）ヲ稅額トシテ控除スル。

（註）法第三十八條、規則第四十條參照

第一表及ビ第二表ニヨリ稅額ヲ徵收スル場合ハ該表稅額ハ既ニ第三號（イ）及ビ（ハ）ノ控除ヲナシアルニツキ同號ハ適用セザルモノトスル。

### 六 税金ノ拂戻及ビ追徴

給與所得者ノ所得金額ガ年額五萬圓以下デアル場合ニオイテ前號（イ）ニヨリ徵收スル所得稅額ソノ年中ノ合計額ガ當該所得ニツイテ第三表ノ稅額ニ比較シテ過不足アルトキハ過納額

ハソノ年最後ニ又ハソノ翌年ニオイテ給與ノ支拂ヲ爲ス際徵收スル所得稅額ニ充當シ（徵收スベキ稅額ガナイトキハコレヲ還付スル）又不足額ハソノ年最後ニ又ハソノ翌年ニオイテ給與ノ支拂ヲナス際順次ニコレヲ徵收スルモノトスル。

（註）法第四十條參照

所得金額ノ年額五萬圓以下ノ場合トハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ二ニ相當スル金額（ソノ金額ガ六千圓ヲ超エルトキハ六千圓）及ビ四千八百圓ヲ控除シタ金額ガ五萬圓以下デアル場合トスル。

### 七 稅票及ビ源泉徵收票

（イ） 稅票

給與ノ支拂ヲナス者ハ前號ノ所得稅額ノ算出ヲ容易ニ且ツ徵稅ノ基礎ヲ明確ニスル爲ニ各人別ニ稅票（別紙様式）ヲ作成スルモノトス。

（ロ） 源泉徵收票

給與支拂者ハ源泉徵收票ニ通シテ作成シ給與ノ支拂ヲナシタ年ノ翌年一月二十五日迄（年ノ中途ニオイテ退職ガアツトキハ退職後一月以内）一通ヲ所轄稅務署ニ提出シ他ノ一通ヲ給與ノ支拂ヲ受ケル者ニ交付スルモノトス。

（註）法第六十二條

源泉徵收票ハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケコレガ提出及ビ交付シナイコトガデキル。本徵收票ノ省略標準ハ大藏省ニテ研究中デアルカラ

0947

決定次第通知スル。

八 諸様式

(イ) 納付書 (所得税法施行細則第一號書式)

(ロ) 徴收高計算書 (同 第二號書式)

(ハ) 源泉徴収票 (同 第三號書式)

(別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付スル)

○ 雜 款

○ 正 誤

五月五日附復員廳第二復員局公報通牒欄「二復第一五三號」ハ

「二復總第一五三號」ノ誤

0948

復員廳第二復員局公報

第二一一號

第二復員局文書課

昭和二十二年五月十五日(木)

○令 達

復二第三五二號

第二復員部内暫定加給支給規則中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十四日

復員廳 總裁

第二條 削除

第三條中「俸給給料加給額」ヲ「暫定加給ノ月額」ニ改メル。

第三條ノ二 内地ニ在ル第二復員部内職員ニシテ現ニ受ケテイ

ル俸給又ハ給料ト暫定加給トノ合計額ガ別表第五ニ於ケルソ

ノ者ノ年齢ニ對應スル金額ニ滿タナイトキハソノ差額ニ相當

スル金額ダケ暫定加給ヲ増額スル。

第四條 削除

第五條 削除

第八條ノ二 第三條ノ二ノ規定ニ依リ増額スル金額ノ支給區分

ハ左ノ各號ニヨル。

(一) 四月一日カラ六月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ

テハ七月分カラ支給スル。

(二) 七月一日カラ九月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ

テハ十月分カラ支給スル。

(三) 十月一日カラ十二月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ  
イテハ一月分カラ支給スル。

(四) 一月一日カラ三月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ  
テハ四月分カラ支給スル。

別表第一中「俸給、報酬加給額」、別表第二及ビ第三中「給料加給額」並ビニ別表第四中「俸給給料加給額」ヲ「暫定加給額」ニ夫ニ改メル。

附則

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。

昭和二十二年四月一日ニ於テ別表第五ノ滿年ニ達シタ者ニ付テ

ハ第八條ノ二ノ規定ニ拘ラズ昭和二十二年四月分ヨリ第三條ノ

二ノ規定ニ依リ暫定加給ヲ増額スル。

(別表添)

復二第三五三號

第二復員部内臨時家族手当支給規則中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十四日

復員廳 總裁

第二條 手当ハ扶養家族一人ニツキ左ノ區分ニヨリコレヲ支給スル。

復員廳第二復員局公報 第二一一號 昭和二十二年五月十五日

0949

<p>附則</p>	<table border="1"> <tr> <td>特別地域</td> <td>六大都市ノ一部 コレニ準ズル地域</td> </tr> <tr> <td>東京都ノ區ノ存スル區域</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大 阪 市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>神 戸 市</td> <td></td> </tr> </table>	特別地域	六大都市ノ一部 コレニ準ズル地域	東京都ノ區ノ存スル區域		大 阪 市		神 戸 市		<p>一 内地ニアル各廳ニ勤務スル者ニハ一率ニ百五十圓</p> <p>二 外地又ハ外國ニ在ル者ニシテ内地ニ扶養家族ヲ殘置スルモノ(兵ヲ除ク)</p> <p>(イ) 別表特別地域ヲ俸給又ハ給料ノ家族渡ヲ受クル家族(以下本條ニ於テ當該家族ト稱ス)ノ居住地トスル者 一月 百九十五圓</p> <p>(ロ) 別表甲地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百八十圓</p> <p>(ハ) 別表乙地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百六十五圓</p> <p>(ニ) 別表丙地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百五十圓</p> <p>別表甲地域欄中「六大都市」ヲ「六大都市ノ一部」ニ改メ「東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、神戸市」ヲ削リ甲地域欄ノ上ニ次ノ特別地域欄ヲ加ヘル。</p>
特別地域	六大都市ノ一部 コレニ準ズル地域									
東京都ノ區ノ存スル區域										
大 阪 市										
神 戸 市										
<p>二復經主第二號ノ三九 昭和二十二年五月十日 復員廳第二復員局經理部長</p>	<p>○通牒</p> <p>本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。</p> <p>附則</p> <p>(ハ) 前各號以外ノ市ヲ勤務地トスル者 一 割</p> <p>(ロ) 横濱市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ヲ勤務地トスル者 二 割</p> <p>(イ) 東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市及ビ神戸市ヲ勤務地トスル者 三 割</p> <p>計額ヲ左ノ區分ニヨリコレヲ支給スル。</p>	<p>本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。</p> <p>復二第三五四號、 第二復員部内臨時勤務地手當支給規則中次ノヨウニ改正スル。 昭和二十二年五月十四日</p> <p>復員廳 總裁</p> <p>第一條中「東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、横濱市、神戸市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ニアル第二復員部内各廳ニ勤務スル者ニハ」ヲ「第二條ノ規定ニ該當スル地域ヲ勤務地トスル者ニハ」ニ改メル。</p> <p>第二條 手當ハ俸給又ハ給料、暫定加給及ビ臨時家族手當ノ合計額ヲ左ノ區分ニヨリコレヲ支給スル。</p>								

949-2



關係各廳長殿

俘虜ノ携帶スル「デイリー、ウォーク、レコード」ニ關スル件照會  
首題ノ件ニ關シ大藏省理財局長ヨリ別紙ノ通り通知ガアツカラ、了知ノ上元海軍軍人軍屬關係ノ當該「レコード」ニツイテハ當部ヲ經由シテ大藏省ニ送付ノコトニ取計ワレタイ。

(別紙)

藏理外第九四五號

昭和二十二年四月二十五日

大藏省理財局長

第二復員局經理部長殿

俘虜ノ携帶スル「デイリー、ウォーク、レコード」ニツイテ

聯合國最高司令部カラ日本ノ歸還俘虜ガ携行スル「デイリー、ウォーク、レコード」ハ現地米軍ガ俘虜ニ對シテ、ソノ期間中ノ所得計算ノ基本トシテ發行シタモノデアツテ、其ノ所得ハ既ニ現地ニオイテ支拂濟デアルカラ右「レコード」ハコレヲ引上ガ連合國最高司令部ニ引渡サレタイトノ注意ガアツタ、ツイテハ貴局關係ノ歸還俘虜デアツテ右ノ「レコード」ヲ携帶スルモノガアツタラ之ヲ引上ガ當局マデ送付サレタイ。

二復經主第二號ノ四〇

昭和二十二年五月十四日

復員廳第二復員局公報 第一二二號

昭和二十二年五月十五日

關係各廳長殿

復員廳第二復員局經理部長

「國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂規則」  
中一部改正ノ件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り四月三十日大藏省令第四十二號ガ公布サレタカラ承知サレタイ。

追ツテ退職手當、死亡賜金、掃海作業勤務者死傷手當、掃海慰勞金及ビ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニヨル扶助金ハコノ省令第一條第一項第一號ノニニ規定サレテイル退職ノ際支拂ノ受ケル臨時的給與トシテ取扱ワレタイ。

(昭和二十二年三月二十七日第二復員省公報第五九號參照)

(別紙)

大藏省令第四十二號

國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂規則ノ一部ヲ次ノヨツニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

大藏大臣 石橋 湛山

第一條第一項第一號中「當該月ニ於テ七百圓(分類所得稅額、恩給法國庫納金額、健康保險保險料額、厚生年金保險保險料額及共濟組合掛金額ノ含マズ)ヲ超ユル定期的給與ヲ受クル者ニ付テハ七百圓迄ニ限ル」ヲ削リ、同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加エル。  
一ノ二 慰勞金、退職金其ノ他ノ臨時的給與ニシテ退職ノ際

二二三

949-3

支拂ヲ受クルモノ中退職者ノ退職時ニ於ケル俸給、給料、手當其ノ他之ニ準ズル定期的給與（實與其ノ他當該月ニ於テ特ニ一時的ニ支拂ハルモノヲ除ク）ノ合計額ノ三月分ニ相當スル金額ノ支拂ノ爲之ニ要スル金額

附則

コノ省令ハ昭和二十二年五月一日カラコレヲ施行スル。コノ省令施行ノ日以後ニオイテ俸給、給料、手當、賞與ソノ他ノ定期的給與ヲ昭和二十二年四月分以前ノモノヲ支拂ウトキハ改正前ノ第一條第一項第一號及ビ第二條ノ規定ニヨル。

○雜 談

○郵便物發送先

試航船 榮 昌 丸 岡山縣玉野郵便局氣付

同 わかくさ丸 岡山縣玉野市三井造船所氣付

○事務所

四月二十八日閉鎖 特別輸送艦朝風丸殘務整理班

自今連絡ハ吳郵便局氣付 特別保管艦客月主計長宛

0950

(別表第五)

(昭和二十二年五月十五日復員廳第二復員局公報)

暫定加給ノ増額

年齢	月	額	日	額	年齢	月	額	日	額	年齢	月	額	日	額
一三歳	四	四〇〇	一三・三〇	二	三歳	六	六四〇	二一・三〇	三	三歳	八	八四〇	二八・〇〇	二八・〇〇
一四	四	四四〇	一四・七〇	二	四	六	六六〇	二二・〇〇	三	四	八	八七〇	二九・〇〇	二九・〇〇
一五	四	四七〇	一五・七〇	二	五	六	六七〇	二二・三〇	三	五	九	九〇〇	三〇・〇〇	三〇・〇〇
一六	五	五〇〇	一六・七〇	二	六	六	六九〇	二三・〇〇	三	六	九	九二〇	三〇・七〇	三〇・七〇
一七	五	五三〇	一七・七〇	二	七	七	七〇〇	二三・三〇	三	七	九	九四〇	三一・三〇	三一・三〇
一八	五	五六〇	一八・七〇	二	八	七	七二〇	二四・〇〇	三	八	九	九六〇	三一・〇〇	三一・〇〇
一九	五	五八〇	一九・三〇	二	九	七	七四〇	二四・七〇	三	九	九	九八〇	三一・七〇	三一・七〇
二〇	五	五九〇	一九・七〇	三	〇	七	七六〇	二五・三〇	四	〇	一〇	一〇〇〇	三三・三〇	三三・三〇
二一	六	六一〇	二〇・三〇	三	一	八	七八〇	二六・〇〇						
二二	六	六三〇	二一・〇〇	三	二	八	八一〇	二七・〇〇						

備考 年齢ハ満年ヲ示ス。

0951

# 復員廳第二復員局公報

第一二二號

昭和三十二年五月十六日(金)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第三五五號

復員廳分課規程別紙第二中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳 總裁

第一條第一項中「、醫務課」ヲ削リ、「扶助課及ビ業績課」ヲ「及ビ扶助課」ニ、「會計課及ビ契約課」ヲ「及ビ會計課」ニ改メル。

第三條中第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ次ノ一號ヲ加エル。

四 醫務ニ關スル事項

第七條 削除

第九條中第二號ヲ第三號トシ第一號ノ次ニ次ノ一號ヲ加エル。

二 戰歿者ノ諸調査ニ關スル事項

第十一條 削除

第十三條中第三號ヲ第四號トシ第二號ノ次ニ次ノ二號ヲ加エル。

三 寶買、貸借、請負ソノ他ノ契約ニ關スル事項

第十四條 削除

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第三五六號

復員廳第二復員局及ビ地方復員局ノ定員ヲ各々別表ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳 總裁

(別表添)

復二第三五七號

昭和二十二年復二第三〇八號(横須賀管船部ニ人員臨時増置ノ件)及ビ同年復二第五二五號(第二復員局總務部掃海課ノ人員臨時減員ノ件)ハコレヲ廢止スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳 總裁

(參照 昭和二十一年十月十日、同二十二年一月十日第二復員局公報)

## ○通 牒

二復經主第七號ノ二三二

昭和二十二年五月十五日

復員廳第二復員局經理部長

復員廳第二復員局公報 第一二二號 昭和二十二年五月十六日

一一五

0952

關係各廳長殿

電信員ノ勞務手當ニ關スル件通牒

第二復員部内職員給與規則第八條適用上電信員中當直勤務ニ服スル一級無線通信士及ビ二級無線通信士ハ高等科特技章ヲ、三級無線通信士、飛行豫科(通信専修)出身者及ビコレト同程度以上ノ通信術得修者(有線通信士ヲ含ム)ハ普通科特技章ヲ夫ニ附與セラレタル者ト看做スコトニ定メラレタカラ通知スル。

5220

0953

(復二第三五六號第一表)

(昭和二十二年五月十六日第二復員局公報)

復員應第二復員局定員表

考 備	合 計	資 料 整 理 部	連 絡 部	調 査 部	補 給 部	經 理 部		人 事 部			總 務 部					文 書 課	部 課	復 員 應 第 二 復 員 局 定 員 表					
						會 計 課	主 計 課	扶 助 課	人 事 課	計 課	電 信 課	造 修 課	掃 海 課	管 船 課	總 務 課				復 員 事 務 官	嘱 託 員 員 備 人			
一 總務部、人事部及び經理部ノ各課ノ人員ハ當該部ノ各課ヲ通ジテコレヲ置クコトガデキル。	四	一九	一九	一八	九	二〇	一〇	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	一	二	級 二 級 三 級	八	五	一五	一四五	
二 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代エ嘱託ヲ置クコトガデキル。																							
三 復員事務官三級ノ定員ニハ復員技官三級ヲコレニ充テタルコトガデキル。																							
四 總裁官房ニ復員事務官二級一人及ビ三級一人並ビニ雇員備人五人ヲ配員スル。																							
五 掃海管部ノ定員ハ別ニ定メルトコロニヨル。																							
	一八三	一五	二	四	四	三八	二七	一一	一一	五二	一七	三五	五一	二四	九	五	六	七	一〇	一〇	一〇	一六三	六八二

0954

(復)第三五六號第二表 (昭和二十二年五月十六日第三復員局公報)

考 備	復員地方復員局定員表																																						
	局員復地方地阪大					局員復地方地鶴舞					局員復地方地保世佐					局員復地方地吳					局員復地方地賀須横					局													
	計	補給部	經理部	總務部	計	舞鶴上陸地連絡所	補給部	經理部	人事務部	總務部	計	佐世保上陸地連絡所	補給部	經理部	人事務部	總務部	計	宇品上陸地連絡所	下關掃海部	大竹掃海部	吳管船部	補給部	經理部	人事務部	總務部	計	函館上陸地連絡所	大湊管船部	横須賀管船部	補給部	經理部	人事務部	總務部	一級	二級	三級	四級	嘱託	雇員備人
一 各地方復員局長ハ各部所ノ事務ノ繁閑ニ應ジテ各部所ノ人員ヲ彼此増減スルコトガデキル、但シコノ場合中央配員ノ者ニツイテハ速カニ第二復員局人事部長ニ通報スルモノトスル。	三	五六〇	一、三四七	七二	四、〇四六	七二	一、三〇九	八	八	七二	二、〇四六	二〇	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
二 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニハ夫々復員技官二級又ハ三級ヲコレニ充テルコトガデキル。																																							
三 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代エ嘱託ヲ置クコトガデキル。																																							
四 本表ノ外行動不能艦艇ノ保管員又ハ監視員ニ充テルタメ各艦艇毎ニ復員事務官、雇員備人一人又ハ二人ノ當該管船部又ハ總務部ニ増加スル。																																							

# 復員廳第二復員局公報

第一一三號

昭和二十二年五月二十二日(木)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第三二七號  
海軍編制ヲ廢止シ、同編制ニ編入ノ艦船、ソノ他ノ艦船ヲ全部  
除籍スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

復二第三二八號  
驅潜隊編制ヲ廢止スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

復二第三六五號  
左ノ内令ハコレヲ廢止スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

特設艦船部隊令  
特設海軍航路部令  
特設海軍經理部令  
特設海軍施設部令

特設海軍軍需部令  
特設海軍工作部令  
特設海軍建設部令  
特設海軍航空廠令  
特設海軍燃料廠令  
特設海軍衣糧廠令  
特設海軍病院令  
特設海軍航空輸送廠令  
特設海軍氣象部令  
特設海軍補充部令  
特設海軍運輸本部令  
特設海軍運輸部令  
特設船舶警戒部令  
特設船舶救難本部令  
海軍航空要員研究所令  
海軍特兵部令  
海軍化兵戰部令  
海軍武官支那及南方地方在勤令  
海軍特別陸戰隊令  
海軍特別根據地隊令

復員廳第二復員局公報 第一一三號 昭和二十二年五月二十二日

一一七

0956





# 復員廳第二復員局公報

第一一四號

昭和二十二年五月二十六日(月)

第二復員局文書課

○令 達

復二第三七四號

四月一日復二第二四五號本年度歳出科目ニ左ノ通り追加サレ  
夕。

昭和二十二年五月二日

復員廳總裁

部	(行政共通費)		
款	(諸支出金)		
項	(諸支出金)		
目	領	條	號
(給與(特別)給與費)			
業務地手	行政部費ノ勤務地手當豫算ニ不足ヲ生シタル場合支出整理ヲナスモノ		カ

復二第三七五號  
當分ノ間第二復員部内職員公務ニ依リ内地ヲ旅行スルトキ支給スベキ船賃及ビ車馬賃ハ海軍内國旅費規則第三表ノ規定ニ拘ラズ別表ニヨル。

復員廳第二復員局公報 第一一四號 昭和二十二年五月二十六日

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。  
昭和二十二年五月二十三日

復員廳總裁

### 第三表 船賃及ビ車馬賃

旅費等級	親任官	一級官更	二級官更	三級官更	一員	二員	三員	四員	五員	六員	七員	八員	九員	十員
船賃	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
車馬賃	八〇	七〇	六〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

備考  
一 本表定額ヲ以テ實費ヲ支辨シ難キトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトガデキル。  
二 一軒ノ計算ハ一哩ハ一・六軒、一哩ハ一・八五軒、一里ハ四軒ト看做シコレヲ計算スル。

### ○通牒

二復入第四號ノ七八  
昭和二十二年五月三日  
復員廳第二復員局人事部長  
各廳長殿

一三九

0958

今後復員廳第二復員局内職員辭令形式ハ左記要領ニヨリ實施スルコトニナツタカラ承知サレタイ。  
 追ツテ便宜上電報符號使用ハ從來通りデアル。

記

一 補職命課

復員廳第二復員局	〇〇部長復員事務官	何	某
〇〇地方復員局長	ニ補スル		
海第〇〇號艦長	ヲ命ズル		
〇〇管船部勤務復員事務官	何	某	
海第〇〇號艦長	ヲ命ズル		
〇〇號艦長	復員事務官	何	某
〇〇地方復員局	〇〇部勤務ヲ命ズル		
〇〇地方復員局	〇〇部勤務復員事務官	何	某
〇〇地方復員局	〇〇部勤務ヲ命ズル		
〇〇地方復員局	〇〇部勤務復員事務官	何	某
海第〇〇號乘組	ヲ命ズル		
海第〇〇號航海長	復員事務官	何	某
兼ネテ海第〇〇號航海長	ヲ命ズル		
二 任免、敘級ノノ他			
復員事務官	ニ任命スル	何	某
二級ニ敘スル	ノ		
復員事務官	ヲ給スル	何	某

二級ニ陞敘スル	復員事務官	何	某
復員事務官	ニ任命スル	何	某
三級ニ敘スル			
何號俸ヲ給スル			
願ニ依リ木官ヲ免ズル	復員事務官	何	某
〇〇事務官	何	某	
復員事務官ニ兼ネテ任命スル			
〇〇事務官兼復員事務官	何	某	
兼復員事務官ヲ免ズル			
〇〇事務官兼復員事務官	何	某	
三 定員上定メラレテイルモノノ外從來附シ命ゼラレテイタモノハ別ニ辭令ヲ用イナイデ勤務ヲ命ゼラレタモノトスル。			
二復經主第二號ノ四一			
昭和二十二年五月十九日			
復員廳第二復員局經理部長			
關係各廳長殿			
四個國引渡艦ノ引渡ニ件ヲ收納支拂事務掌理ニ關スル件通牒			
首題ノ件ニ關シ左記ノ通り定メラレタカラ了知アリタイ。			
一 四個國引渡艦ノ乗員收容ノタメコレト同行スル艦船ノ主計			

長ヲ出納官吏下シ、同艦船固有ノ收納支拂事務ノ外、四個國引渡艦回航中ノ不時ノ物件的經費ノ支拂ヲ掌理セシメル。

二 地方復員局經理部長ハ復員廳第二復員局歳入歳出事務取扱要領第三條ノ規定ニ拘ワラズ當該地方復員局所屬管船部ニ置カレテキル出納官吏ヲシテ四個國引渡艦ノ收納支拂事務(前號ニ掲ゲル不時ノ物件的經費ノ支拂ヲ除ク)ヲ掌理セシメルコトガデキル。

二復經主第二號ノ四二

昭和二十二年五月十九日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長 殿

四個國引渡艦ノ引渡ニ伴フ收納支拂事務掌理ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般二復經主第二號ノ四一ヲ以テソノ掌理區分ニツキ通牒セラレタガ、ソノ事務掌理ハ左記要領ニヨラレタ

記

一 四個國引渡艦ニ指定セラレタ艦船(以下引渡艦ト稱スル)ノ收納支拂事務ハ所管地方復員局經理部又ハ同地方復員局所屬管船部(以下所管經理部又ハ所管管船部ト稱スル)ニオイテコレヲ掌理スルモノトシ、ソノ事務掌理ヲ他ノ各部ヨリソノ所管經理部又ハ所管管船部ニ移牒スベキ場合ハソノ出納官

吏ト分離行動スル時期ニオイテ、コレヲ移牒スルモノトスル。但シ引渡艦回航中ノ不時ノ物件的經費ノ支拂ニツイテハ同艦乘員收容ソクメコレト同行スル艦船(以下歸還艦ト稱スル)ノ主計長ガコレヲ掌理スルモノトスル。

二 引渡艦乘員ハ最初ノ引渡完了ノ時期ニオイテ所管管船部附トセラレ、事後ソノ身分ノ儘歸還艦又ハ次ニ配乗セラレル引渡艦ノ臨時乗組ヲ命ゼラレル見込アルガ、コレニ對スル諸給與(航海日當、旅費等ヲ含ム)ノ支拂ハ引續イテ所管經理部又ハ所管管船部ニオイテコレヲ掌理スルモノトスル。

三 引渡艦ノ引渡ニ從事スル艦船乘員(歸還艦乘員ヲ含ム)ニ對シテハ俸給又ハ給料、暫定加給、家族手當及ビ勤務地手當ノ三分分(ソノ月分ヲ含ム)以内ヲ前金拂スルコトガデキル。但シ第一號ノ規定ニヨリ給與掌理ヲ所管經理部又ハ所管管船部ニ移牒スル場合ハ從前ノ出納官吏方右ノ前金拂ヲシタソノ給與掌理ヲ移牒スルモノトスル。

四 引渡艦長又ハ歸還艦長ハソノ乘員又ハ便乘者ノ諸給與ノ支拂等ニ關係アル事項ヲ速カニソノ事務掌理者ニ通知シナケレバナラナイ。

五 各出納官吏ハ引渡艦ノ引渡ノタメ特ニ要シタ經費(引渡艦及ビ歸還艦ノ回航ノタメ特ニ要シタ燃料費、消耗器材費、被服費、食糧費、修繕料、船舶用需品費、雜費)ニツキ、毎月ソノ科目別支出金額ヲ第二復員局經理部長ニ通知シナケレバナラナイ。

復員廳第二復員局公報 第一一四號

昭和二十二年五月二十六日

一一一

0960

六、保管艦ノ收納支拂事務ハ、既ニ所管經理部又ハ所管管船部ニオイト掌理セル場合ノ外、引渡艦引渡ノ進捗ニ伴ウ掌理範圍ノ縮減ニ應ジ適當ノ時期ヨリ所管經理部又ハ所管管船部ニオイトコレヲ統合掌理スルヨウ措置スルモノトスル。

○ 離 職

昭和二十年 三月十五日	臺中州警部ニ轉官	海軍警部	氷野 友一
昭和二十二年 四月六日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	村里久磨治
同	臺灣總督府地方技師ニ轉官	海軍技師	長谷川 正
同	同	同	角田勝治郎
同	臺北州警部ニ轉官	海軍警部	吉良 留雄
同	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍技師	日雨孫 勉
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	山本 利勝
同	同	同	尾崎 義雄
五月二十三日	農林技官ニ轉官	海軍技師	永田 正
同	大藏技官兼大藏事務官ニ轉官	同	岡村 誠
五月二十四日	地方事務官ニ轉官	海軍司政官	山田 忠
同	同	同	大谷 武男
六月十五日	遞信事務官ニ轉官	同	高野 昇
同	同	海軍警部	小出 友一
同	大藏事務官ニ轉官	海軍司政官	同

同	關東種畜場技師ニ轉官	海軍技師	石山 顯義
同	朝鮮總督府技師ニ轉官	同	小林 勝礼
七月十五日	臺灣總督府理事官ニ轉官	海軍司政官	森井 泰博
同	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	仁尾 清利
同	遞信事務官ニ轉官	海軍司政官	村上 治雄
同	地方技官ニ轉官	同	辻 三郎
八月十五日	地方事務官ニ轉官	同	片岡榮三郎
同	高雄州警部ニ轉官	海軍警部	渡邊庄九郎
九月十五日	遞信事務官ニ轉官	海軍書記	大橋 敏昌
昭和二十二年 一月三十日	地方技官ニ轉官	海軍技師	中村三四郎
同	高雄州屬ニ轉官	海軍書記	堀見 一夫
二月三日	同	同	同